釧路湿原国立公園　温根内ビジターセンター

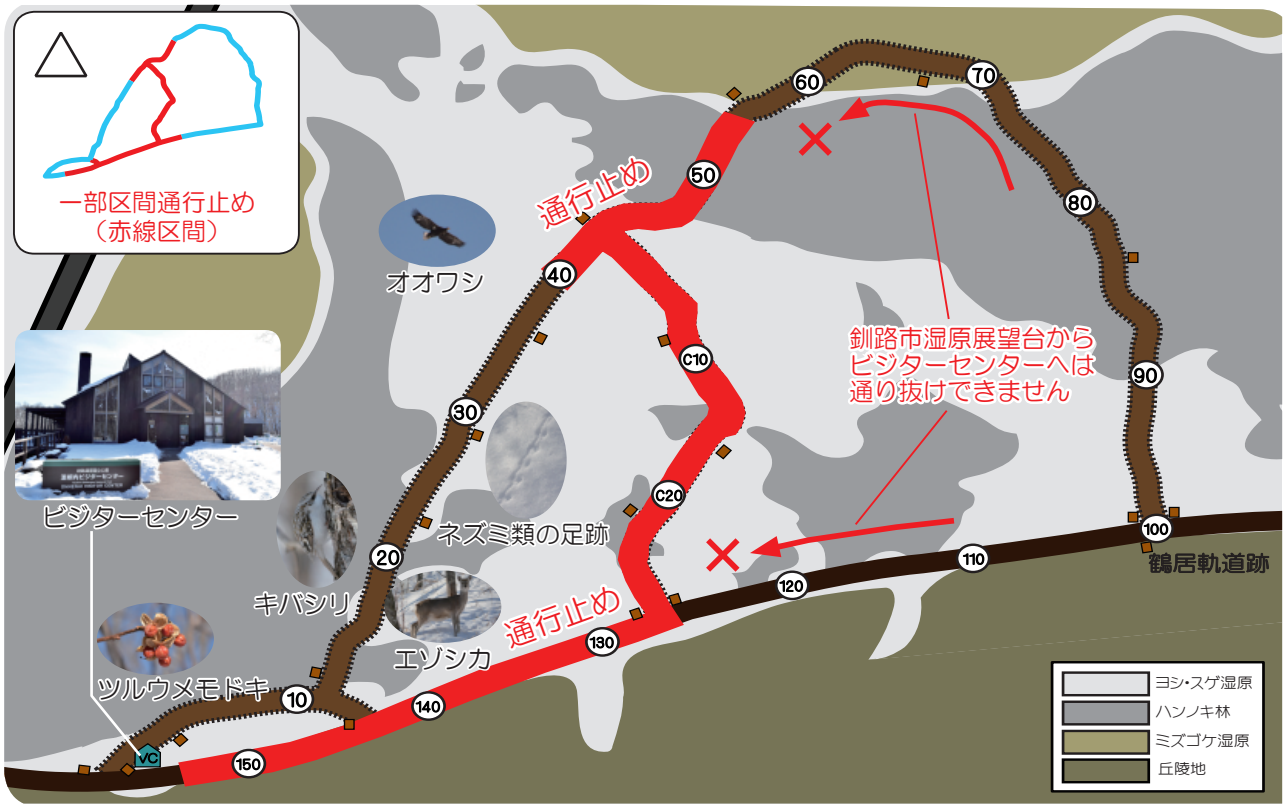
月刊温根内通信

2022年2月号　№.305　　2月15日（火）発行

厳冬の湿原に たくましく

丘陵地の雑木林に１羽のオジロワシが。木道を歩く人々を優雅に見下ろしつつ、湿原の様子を虎視眈々と窺っていたのでしょうか。
湿原のハンノキ林では、エナガの群れがしきりに枝を突いて餌を探しながら、移動していきました。
厳冬の釧路湿原。パンデミックで右往左往する人間をよそに、ここではいつもと変わらない命のやり取りが行われています。

☆☆☆　温根内木道周辺で見られた自然（1/15～2/14）　☆☆☆



【ツルウメモドキ（実）】
ニシキギ科　蔓梅擬
秋にも紹介しましたが、しぶとく枝に残っています。ツグミなどの鳥が好んで食べています。

【エゾシカ】
シカ科　蝦夷鹿
巡回をしていて、見ない日はないというくらいです。彼らも冬を乗り切るために必死です。

【ネズミ類の足跡】
樹木や枯れ草の根元から根元へと移動しているのがわかります。足跡と足跡の間に尻尾の跡がつくのが特徴です。

【オオワシ】　冬鳥
タカ科　大鷲
翼の前縁部が白くないので若い個体です。頻繁ではありませんが、時折上空で見ることができます。

【キバシリ】　留鳥
キバシリ科　木走
その名の通り、木を走るように上っていきます。暖かい日には優しい囀りも聞こえてきます。

もうすぐ見られるかも！

【ヒシクイ】北へ渡る途中の群れが上空を通過していきます。

○表紙の写真 上：オジロワシ　下：エナガ

○温根内木道周辺で確認された鳥 一覧表（1/15～2/14）

冬の寒さが続いている釧路湿原。しかし、徐々に日中の暖かさに春を感じるようになってきました。留鳥たちは餌探しに必死の様子ですが、囀りも時々聞こえてきます。オオワシ・オジロワシもまだ時折観察できています。

鳥（和名は日本鳥類目録第７版の順）							
1	タンチョウ	7	ケアシノスリ	14	カケス	21	ゴジュウカラ
2	トビ	8	フクロウ	15	ハシボソガラス	22	キバシリ
3	オジロワシ	9	コミミズク	16	ハシブトガラス	23	ミソサザイ
4	オオワシ	10	コゲラ	17	ハシブトガラ	24	ツグミ
5	チュウヒ	11	オオアカゲラ	18	シジュウカラ	25	セグロセキレイ
6	ノスリ	12	アカゲラ	19	ヒヨドリ		
		13	クマゲラ	20	エナガ		

※温根内木道周辺の植物を折ったり持ち帰ったりしないようお願いします。また、木道から降りて写真を撮ることはおやめください。皆様が気持ちよく散策・観察できるようご理解とご協力をお願いします。

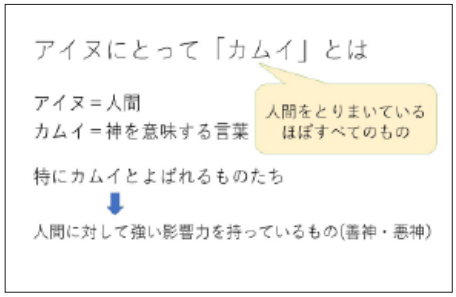
※１月 16 日に予定されていた「湿原アニマルトラッキング」は、太平洋沿岸地域に津波注意報が発令されたため、参加者の安全を考慮し、中止といたしました。また、２月６日に予定されていた「アイヌの自然観 ～カムイ編～」は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、中止といたしました。

☆☆☆☆　特別寄稿　アイヌとカムイ　奥田 幸子（釧路アイヌ語の会）　☆☆☆☆

２月６日（日）に予定していた自然ふれあい行事「アイヌの自然観 ～カムイ編～」ですが、残念ながら新型コロナの感染拡大防止のため中止となってしまいました。そこで、当日の講師をお願いしていた、釧路アイヌ語の会所属の奥田幸子さんに、予定していた「アイヌの自然観 ～カムイ編～」のお話を紙面でしてもらいましたので、ここに紹介したいと思います。

（1）「カムイ」とは？

アイヌの人たちが使う「カムイ」という言葉は、「神」と訳されますが、一般に考えられている神と少し違うかもしれません。「アイヌ」とは人間という意味ですが、人間以外のほぼすべてのもの、草や木の一本一本、草の周りを飛ぶ虫たちもアイヌの人はカムイと見なしたそうです。ただ、その中でも特に人間に恩恵を与えてくれるもの、例えば体を温めてくれる火とか、毛皮や肉を与えてくれる動物などはカムイという名前もつけられて呼ばれました。クマですとキムンカムイ（山の神）、シマフクロウですとコタンコ゚カムイ（村を守護する神）などですね。また、人間を脅かす疫病などもカムイでパヨカカムイ（歩き回る神）と呼んでいます。



カムイは、カムイの国（カムイモシ゚）から人間の国（アイヌモシ゚）にやって来るときはそれぞれの衣装（クマはクマの衣装、キツネはキツネの衣装）を着て、肉と毛皮をお土産にしてやってきます。そうして、人間の国で一緒に社会を作っていると考えていました。釧路湿原は、カムイだらけですね。

（2）「カムイ」にまつわる物語

ここで、釧路湿原にも暮らすカムイに関して、アイヌの間で語り継がれてきたいくつかの物語を紹介したいと思います。

○ミソサザイ【チャクチャクカムイ】

ミソサザイは日本で確認される一番小さな鳥で、釧路湿原やその周辺の森林にも生息しています。春から夏にかけては繁殖のためにとても複雑で美麗な声で囀り、秋以降は「ジャッ、ジャッ」という地味な声で鳴きます。すばしっこくて、なかなか姿を見ることができない鳥です。アイヌ語では、トシ゚ポクンカムイ「tosir-pok-un-kamuy（川岸の穴・の下・に入る・神）」とか、その鳴き声から「チャクチャクカムイ」などと呼ばれています。アイヌの物語には、「ミソサザイ

ミソサザイ

の神が人間を襲う悪いクマの耳の中に入り、やかましくチャランケ（談判）をし、さすがのクマも謝った」という話があります。小さい体でよく鳴く、ミソサザイならではの面白い物語です。チャクチャクと鳴くその姿を一度は見てみたいですね。

○カケス【パ$_{ル}$ケ$_{ウ}$チカ$_{プ}$カムイ】

カケス（亜種ミヤマカケス）はカラスの仲間で、ジェージェー、と鳴くほか、たびたび他の鳥の「声真似」をします。アイヌ語では、エヤミトノ「eyami-tono（カケス・殿）」、パ$_{ル}$ケ$_{ウ}$チカ$_{プ}$カムイ「parkew-cikap-kamuy（口達者な・鳥・神）」などと呼ばれ、「雄弁な神」として扱われています。アイヌの物語には、村の飢饉を救ったカケスの話が残されています。得意な雄弁をもって神様に熱心に訴え続けた結果、人間界の危急が救われた、というお話です。この話の背景には、シカやサケを粗末に扱った人間に、神様が怒った結果の飢饉がありました。

カケス

（3）アイヌの世界観

最後に、アイヌの世界観を知る上で欠かせない、大切な言葉があります。

カント　オ$_{ロ}$ワ　ヤク　サ$_{ク}$　ノ　アランケ$_{プ}$　シネ$_{プ}$　カ　イサ$_{ム}$

「天から役目なしに降ろされたものはひとつもない」という意味です。これはつまり、この世にやってきているすべてのものは、何らかの役割を持ってきたのだから、邪魔者扱いはしてはいけない、ということです。これから私たちが、地球上で持続的に暮らしていくためのとても重要なヒントを指し示していると思いませんか！

☆☆☆☆　イベントのご案内（3月）事前の申し込みが必要です　☆☆☆☆

新型コロナウィルスの感染状況により行事自体が中止になる可能性があります。事前に各施設へご確認ください。

○温根内ビジターセンター　⇒お申し込み☎0154-65-2323

♪湿原の裏山でスノーシューハイク

〔日時〕３月６日（日）10：00～12：00
〔定員〕　10名（小学生は保護者同伴）
〔参加費〕無料
〔場所〕温根内ビジターセンター
残雪の裏山をスノーシューで歩き、雪解けを待つ植物などを観察します。

↑
昨年の様子 →

○塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）⇒お申し込み☎015-487-3003

♪塘路フィールドウォッチング ～晩冬編～

〔日時〕３月５日（土）10：00～12：00　〔定員〕10名（小学生は保護者同伴）
〔参加費〕無料　〔集合場所〕塘路湖エコミュージアムセンター

～レンタルを中止しています～

１月に開始した、歩くスキー・スノーシューの無料レンタルですが、この度のまん延防止措置の適用に伴い、中止しております。またレンタルが再開できた際には、Facebook 等でお知らせいたします。ご了承ください。

月刊　温根内通信　№.305
発行：釧路湿原国立公園　温根内ビジターセンター
〒085-1145　北海道阿寒郡鶴居村字温根内
Tel：0154-65-2323　Fax：0154-65-2185
E-mail：ovc@hokkai.or.jp
ホームページ：http://www.kushiro-shitsugen-np.jp/
Facebook：温根内ビジターセンター　フェイスブック
開館時間：9:00～16:00（4月～10月は17:00まで）
休館日：毎週火曜日（12/29～1/3は休館）　入館無料